2.4. 分科会Ⅱ

分科会Ⅱでは、「わたしたちが前向きに仕事に取り組むために、必要なことは何か？」というテーマ のもと、ワールド・カフェ方式でグループディスカッションを行いました。事前課題で明らかにした 課題や悩みについて、分科会Ⅰでの気づきも共有しながら、いろいろな意見、情報、アイディアを集 めてもらい、新たな気づきを得ることをねらいとしていました。

分科会Ⅱは大きく 4 つのタームで行いました。

ターム 1：自己紹介

まず、アイスブレイクとして簡単な自己紹介を行いながら、「お悩み可視化マップ」で明らかにした自分自身の課題・悩みを発表し、グループで共有しました。

ターム 2：トーキングタイム

次に、テーマに沿ってグループ内で意見交換を行い、ターム 3 に向けてグループ内で出された意見を模造紙にまとめました。リラックスした雰囲気で自由な議論を行ってほしいとの考えから、議論の形式やまとめ方について敢えてルールを設けなかったところ、グループごとに多種多様な議論が展開されました。中には、別グループの盛り上がりに触発されて、自然と活発な議論ができたというグループもあり、全体的に活発な議論が行われたようです。また、ターム 2 では勤続年数の近い参加者同士でグルーピングしたため、比較的似通った課題や悩みが持ち寄られ、議論が盛り上がったのではないかと考えています。

ターム 3：ワールド・カフェ

引き続き、他グループでの議論内容を聞くワールド・カフェを行いました。ターム 3 では勤続年数の異なるグループへの移動を促したところ、全く異なる視点からの意見や感想が飛び交い、議論が盛り上がったようです。キャリアの違う立場からの意見や新しい気づきを得られたといった意見が聞かれました。

ターム 4：まとめ

ワールド・カフェで聞いた内容をターム 2 でのグループでフィードバックし、共有しました。その後、分科会Ⅱ全体を通して得た気づきや感想を各自書き出し、グループ内で共有し、まとめとしました。

分科会Ⅱは、カフェのようなリラックスした雰囲気の中で多くの意見や視点に触れて新たな気づきを得ることを目的としており、参加者からも「悩みの解決につながるヒントを得られた」「新しい考えの発見があった」などの好意的な感想が寄せられ、有意義な時間となったようです。

その一方で時間が足りなかったとの声も聞かれ、タイトなスケジュールの中でどのように時間配分を工夫すべきか、今後の検討課題となりました。

コラム 3　懇親会

1 日目が無事に全体会まで終わり、この後は、多くの参加者が楽しみにしている懇親会の時間です。大阪大学の豊中福利会館へと会場を移し、大阪大学・藤原　瞳（実行委員長）の乾杯の発声で懇親会が開催されました。

今回は、分科会 II で一緒にワークをしたグループをもとに、様々な地域の勤務年数の近い者同士でグループ分けをしました。参加者たちは担当業務に関する情報交換もさることながら、仕事における悩み・将来の展望、地域の特色や文化、最新情報といった様々な話題で大いに盛り上がっていました。

懇親会のイベントとして、ひとつは、毎年恒例の各機関のグッズ紹介を行いました。今年は 17 大学がグッズを持ち寄り、ここぞとばかりに所属機関や出身地域のグッズの、PRを行っていました。グッズの内容は多岐にわたり、おいしいお酒や甘いお菓子、かわいい公認キャラクターのクリアファイルなどなど多くのグッズが紹介され、会場内は、熱くPRする者、グッズをもらおうとする者で大盛況でした。

ふたつめとして、事前に参加者より推薦を受けた、それぞれの大学で活躍するキャラクター達による総選挙を行いました。懇親会会場の壁に掲示されたポスターを参考に、参加者の皆様が No.1 だと思ったキャラクターに投票するイベントです。どのキャラクターも魅力のあるキャラクターばかりでしたが、その中で優勝に輝いたのは、開催校である大阪大学の「ワニ博士」でした！　かわいさの中にもどこかにダンディさを醸し出しているギャップが参加者の心を掴んだのでしょう。

さらに、第 10 回を記念した企画として、歴代のコクダイパン会議のポスター展示を行いました。10 枚のポスターが並ぶと、今までの実行委員や参加者が積み重ねてきた想いや歴史が感じ取れるスペースとなり、複数回参加した経験のある人は立ち止まり感慨にふける姿も見られました。

参加者の皆様よりいただいたアンケートにも、「グッズ紹介がよい。総選挙も良かった」、「色々な人と話ができ、お土産もゲットできました。」など、概ね好評だった懇親会でしたが、楽しい時間というものはあっという間に過ぎ去っていくもので、最後に、東北大学・望月　晃平（実行委員）より閉会の挨拶をいただき、懇親会は大盛況のまま幕を閉じました。

2.5. 分科会Ⅲ

1 日目の分科会Ⅰ「事例報告」で得た新たな知識や気付き、分科会Ⅱ「ワールド・カフェ」で得た自分にはない新しい捉え方や見方、個々人の考えをもとに、分科会Ⅲではとある問題を抱えた状況において、自分ならどう前向きに行動し現状を打破していくのか、グループに分かれてケーススタディを行いました。

そしてそこで行われたグループ内での議論、情報共有をもとに、本会議のテーマ「前向き思考のススメ　～つながるグッドサイクル～」のとおり、自分自身の明日からの行動につながる前向きな行動計画『私の前向き計画書』を作成しました。

(1) アイスブレイク（20 分 9:40～10:00）

まずは討論を円滑に進めるためのアイスブレイクとして、各グループ内で自己紹介とともに「ニックネーム付け」を行いました。

各グループとも皆さんの個性に合わせた、独特かつ愉快（？）なニックネーム付けが行われ、場の空気が和むとともに、議論を進めていく仲間としての意識が高まりました。

(2) ケーススタディ（1 回目 10:00～11:20　2 回目 11:20～12:40）

アイスブレイクで緊張をほぐすと、2 回のケーススタディを行いました。各グループとも以下 5 つのケースのうちあらかじめ提示された 2 つのケースについて課題解決のための意見交換・解決策のまとめを行いました。

Ⅰ　【イベント企画】：防災訓練改善の為に
Ⅱ　【スキルアップ】：新しい部署、新しい仕事
Ⅲ　【業務改善】：負の連鎖からの脱出
Ⅳ　【人間関係】：事務仕事ってめんどくさい！
Ⅴ　【人材育成】：突如、『先輩』になった！

1 時間の議論の後、隣り合うグループでペアとなって互いに発表し合い、解決策の共有と意見交換を行いました。なお、2 回目のケーススタディはペアのグループ同士で半分ほどメンバーを交換してより多くの人と議論できるようにしました。

5 つのケースそれぞれが参加者の職種、経験年数を問わず議論できるテーマで構成されており、各グループとも「あるある！」の声とともに、白熱した議論が展開されました。特に分科会ⅠやⅡで得た知識、気付きをヒントとした意見を述べている参加者が多く見られたのが印象的でした。

また議論の方法も各グループによって様々な特徴があり、事前課題で作成した「お悩み可視化マップ」を参考に各ケースの問題点等について分析しているグループもあれば、今回のテーマでもある「グッドサイクル」に繋がるような解決策を提案しているグループもあり、同じケースについて考えていても様々なアプローチがあることに気付かされる発表となりました。

(3) 「私の前向き計画書」の作成（60 分 12:40～13:40）

分科会Ⅲの最後には、2 日間で得た知識・気付き・新しい捉え方・個々人の考え方をもとに、自分自身が明日からどのように行動していくかを「私の前向き計画書」にまとめました。それまでの和気あいあいとした議論から一転、参加者それぞれが 2 日間を思い返し、明日から自分がどう行動していくかを静かに思い描いている姿がとても印象的でした。

参加者の皆さんが作成した「私の前向き計画書」の一部を掲載していますので、ぜひご覧ください！

計画書①

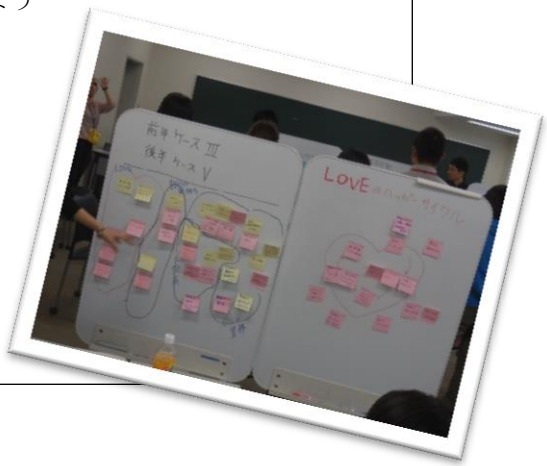
タイトル【組織を変えるには、（自分自身を含めた）人を変えることから始めよう。】
現状・問題点
・他機関との情報共有不足で仕事がチグハグに。
原因・課題
・コミュニケーション不足
☆組織の問題も、全て個人の問題から始まっている。
解決策
・他機関の担当者間で連絡を密に取り合う関係づくり。→定例的な担当者打ち合わせの実施提案
・業務説明会の実施提案・・・他機関担当者とのスケジュールの共有化。

計画書②

タイトル【気負わない自分改革（いざ ver.2.0 へ！！）】
現状・問題点
○知識・技術の向上が遅々として進まない。
　→雑務が止まらない。技術的雑務も多く、ステップアップの機会も少ない。
　→人間関係の調整に時間を割いている。
　→基礎力が欠如している。人よりも多くの時間を必要とする。
原因・課題
○要領が悪い。時間の考え方や見積り方が甘い。
○問題を見て見ぬふりが出来ない。知りたがり関わりたがり。
○自分の状況や問題は後回しにする傾向がある。面倒な業務からの逃避。
○業務の中に見出す楽しみや面白さが依然として少ない。自分のものに出来ていない。
解決策
○必ず定時に帰れるよう時間を意識する。
○問題を常にリストアップする。目視する。これには抱える業務も含まれる。
○気負わない。能力以上のことは出来ない。バランスを重視。他者を巻き込む。
○業務内に楽しみや面白さを見出すため、日に 30 分以上は余裕を作り、勉強や開発テスト等に充てる。

計画書③

タイトル【自ら周りの人を巻き込んでモチベーション向上！】
現状・問題点
・英語対応にためらいがある→スピード感がなくなる
　対応マニュアル少なく、特に窓口や電話等では相手を待たせてしまう
　その結果、対応が悪くなる
原因・課題
①英語の勉強がおろそかになっている、知識不足
②対応件数そのものが少ない、経験不足
→自信が持てない、モチベーションの低下
解決策
①Q&A 集を完成させ、対応マニュアルを自分で作る
　ネイティブの先生の協力をあおぐ
②英語に触れる機会を増やす
　同期を誘って英語サークルを作る、教員も巻き込む



計画書④

タイトル【課内での問題共有及び解決】

現状・問題点

・課内の不満や問題がただの愚痴で終わっている。
・縦割りの業務分担であるため、担当者不在時に対応が遅れる。
・学生にキャリア支援課の意図が伝わっていないのではないか。
・意味のある仕事とは？（アンケートはどこまで必要？）
・全職員での話し合いの場がない。
・明確なゴール（ミッション）がない。

原因・課題

・不満や問題を本人に言いづらい（コミュニケーションは全体的に良好）
・前例踏襲が多い（楽だから、でも意味は？）
・職員の声はどうしても学生へ響きづらい
・アンケートを集計して結果を出しても、活用度が低い
・ミーティングの内容不足

解決策

・本音を話しやすい課内の雰囲気作り
・他者業務の把握
・学生委員会等の活用
・活用していないアンケートの集計をやめる
・課内ミーティングの開催（業務の現状、お願いしたい仕事）

分科会Ⅲケーススタディ　ケース一覧

Ⅰ【イベント企画】：防災訓練改善の為に

＜ケース＞

入職 5 年目の A さんは現在、学生系の部署に配置されている。A さんの勤めるパン大学では毎年、施設管理系部署主導で防災訓練が行われているが、各部署での防災関連業務への優先順位が低く、また内容も毎年同じでマンネリ化していた。

今年の防災訓練も例年と同じ内容で行われたが、その中で A さんは防災訓練の中に学生の避難誘導が盛り込まれていないことに気が付いた。その事について同じ部署の同僚に話したところ、確かにその通りだと同意を得ることは出来たが、具体的な改善案についてまで話が及ぶことはなかった。

＜問い＞

あなたが A さんならこの防災訓練をより効果的なものとするため、どのように前向きに捉え、行動しますか？　これまでの分科会で得た知識も活用しながら、グループ内で話し合い、1 つの行動計画をたてましょう。

Ⅱ【スキルアップ】：新しい部署、新しい仕事

＜ケース＞

A さんは 3 年前に新卒で入職してからこれまで学生系の部署にいたが、今年 4 月に初めて財務系の部署に異動した。新しい部署とはこれまでほとんど関わりが無く、どのような業務内容かもよく分からないまま不安を抱えての異動となった A さんだったが、前任者からの引継ぎと簡単な業務マニュアルを片手に上司や周囲の人に分からないことを聞きながらもなんとか目の前の業務をこなし、異動から 3 ヶ月が経とうとしていた。

ようやく新しい部署にも慣れつつあった A さんだが、これまで目の前の業務を片付けるのに精いっぱいで、その業務が何のためにあるのかを知らずに業務に当たっていたことに気付いた。また専門知識を身に付ける必要性を感じてはいるものの、業務に追われてなかなか落ち着いて勉強することが出来ずにいた。

＜問い＞

あなたが A さんなら自らのスキルアップのためこのような状況をどのように前向きに捉え、行動しますか？　これまでの分科会で得た知識も活用しながら、グループ内で話し合い、1 つの行動計画をたてましょう。

Ⅲ【業務改善】：負の連鎖からの脱出

＜ケース＞

入職 3 年目の A さんは、この秋に初めて学内異動した。職種は同じ会計系であるが、初めて任される業務も多く、しばらく残業が続いている。わからないことがあれば上司に相談しているが、上司は実務について詳しくなく、どうやら A さんの前任者（ベテラン）に任せっきりだったようだ。

業務マニュアルはあるにはあるのだが、だいぶ昔に作成されたもののようで、現状使い物にならず、専門用語も多すぎて、マニュアルのためのマニュアルが欲しいくらいである。きちんとしたマニュアルがないため、一人で仕事を進めるのはもちろん、他者に手伝ってもらうにも、時間がかかってしまっている。

残業続きの A さんは、心に余裕をもてなくなり、係内でもあまり会話することなく、一人仕事に追われる日々が続いている。

＜問い＞

あなたが A さんの場合、この状況から脱出するべく、どのように前向きに捉え、行動しますか？
これまでの分科会で得た知識も活用しながら、グループ内で話し合い、1 つの行動計画をたてましょう。

Ⅳ【人間関係】：事務仕事ってめんどくさい！

＜ケース＞

旅費担当の A さん（入職 4 年目）は、今度海外出張に行く教員に対して、旅費の支給に必要となる書類について、メールでお知らせした。

翌日、事務室にその教員が怒鳴り込んできた。必要な書類が多すぎることに腹をたてているようだ。どうやら、今回の件だけでなく、事務仕事の煩わしさから、日頃から事務職員にはフラストレーションがたまっていたらしく、今回の件でそれが爆発したようだ。

A さんは、規程で定められている必要書類についてお知らせしただけで、それ以外、特に間違ったことは言っていない。

この教員に限らず、A さんが所属する部署では、教員と事務職員の間に目に見えない溝があり、仕事がスムーズに進まないことが度々あった。

みんなの前で怒鳴られた A さんは、すっかり意気消沈してしまい、教員と接するのが恐くなってしまった。

＜問い＞

あなたが A さんの場合、教職員の信頼関係を築くために、どのように前向きに捉え、行動しますか？　これまでの分科会で得た知識も活用しながら、グループ内で話し合い、1 つの行動計画をたてましょう。

Ⅴ【人材育成】：突如、『先輩』になった！

＜ケース＞

A さんは入職 2 年目。今の係は係長と係員 2 名の計 3 名であり、A さんは、新人としてなんとか先輩係員に教わりつつ、業務をこなしてきた。

…が、4 月に先輩係員が異動となってしまった！　後任は大学を出たばかりの新卒新人である。3 人しかいない係であり、係長は非常に多忙なため、「新人は A 君に任せるね～♪」と言われている。今まで『後輩』として何とか目の前の業務をこなしてきたのに、いきなり『先輩』になってしまった……。

しどろもどろになりながら新人を指導しているものの、業務上の報・連・相ができていないなどの問題も見られる。そんな新人にどう注意したらいいか戸惑う一方、自分の業務もこなさなくてはならない……。

＜問い＞

A さんは係の中核として業務をこなしつつ、新人を一人前に育てる責務をも負っています。あなたが A さんの場合、このような状況をどのように前向きに捉え、行動しますか？　これまでの分科会で得た知識も活用しながら、グループ内で話し合い、1 つの行動計画をたてましょう。

2.6. 全体会（クロージング）

2 日間にわたる第 10 回コクダイパン会議もあっという間に最後の全体会（クロージング）となりました。参加者は、1 日目の全体会（オープニング）の時に比べ、これまでの分科会で得るものがあり晴れやかな笑顔の者や、議論し尽くせず全体会に集まっても議論を続けている者など、参加者それぞれ面持ちも変わっており、それぞれが充実した 2 日間を過ごしたように感じられました。

クロージング全体会では、まず、2 日間にわたる会議の総まとめとして、分科会Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通して学んできたことを踏まえ、前向きに物事を捉え、積極的に行動するための自分自身の行動計画として落とし込んだ「私の前向き計画書」の発表を数名の方がしました。

当初は、緊張からかなかなか手が挙がらなかったものの最終的には自ら挙手をして発表する方も出てきて、意識の高まりが感じ取れました。

「私の前向き計画書」は業務の効率化や周囲とのコミュニケーションといった直接業務に関わってくる計画書から、自らの意識を変えることなどの気持ちの面に焦点を当てた計画書まで内容が多岐にわたっていたため、発表を聞く参加者も「そのような考え方もあるのか」とうなずいて反応する等、有意義な情報共有の場にもなっていたようでした。

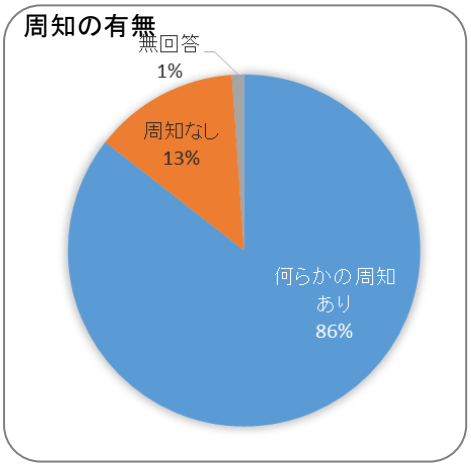
続いて、実行委員長の藤原　瞳（大阪大学）の挨拶をもって、2 日間を振り返りました。その後、参加者全員がお互いへの感謝、今後の健闘を祈り、参加者全員による参加者全員のための拍手をもって、第 10 回国立大学一般職員会議は閉会しました。

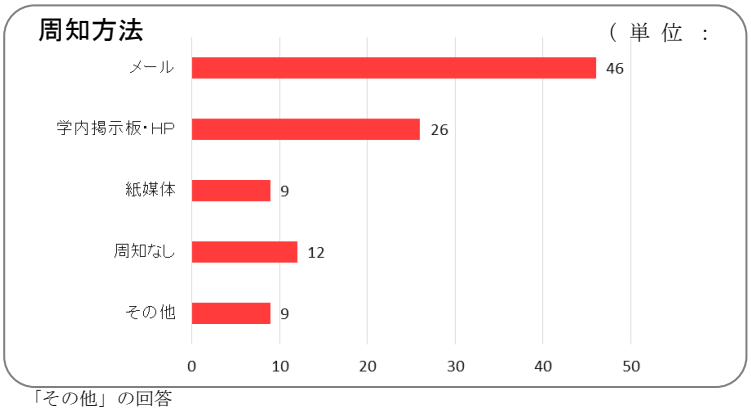
3. アンケート結果

100 名の参加者のうち 90 名（90%）から回答をいただきました。ここではその集計結果について紹介いたします。

1. 会議に出席にするにあたって

1-1　所属機関におけるコクダイパン会議開催の周知状況（複数回答可）





「その他」の回答

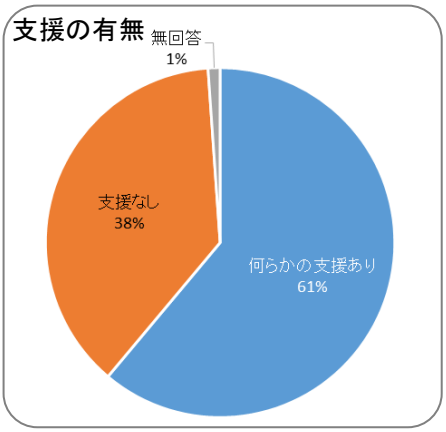
人事課から個人的に連絡／参加経験のある先輩からの勧め／実行委員からのおさそい／グループウェアによる周知／未参加の対象職員に直接周知／メール登録している人から直接個人に／伝言／スタッフによるメール送信／学内での研修告知

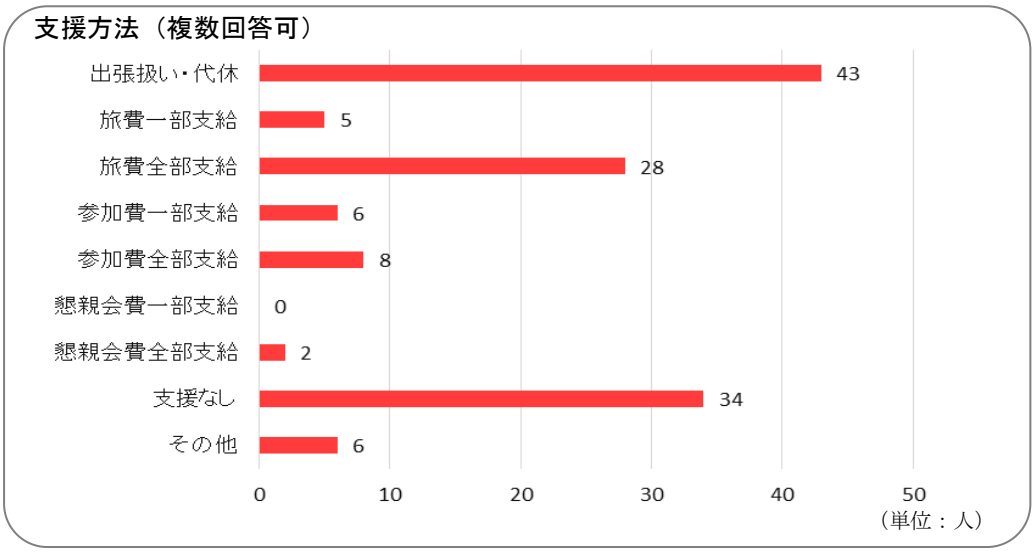
9 割近くの機関において周知が行われているようです。周知方法としてはメールによる周知が最も多く、過半数を占めています。

1-2　所属機関におけるコクダイパン会議参加への支援状況

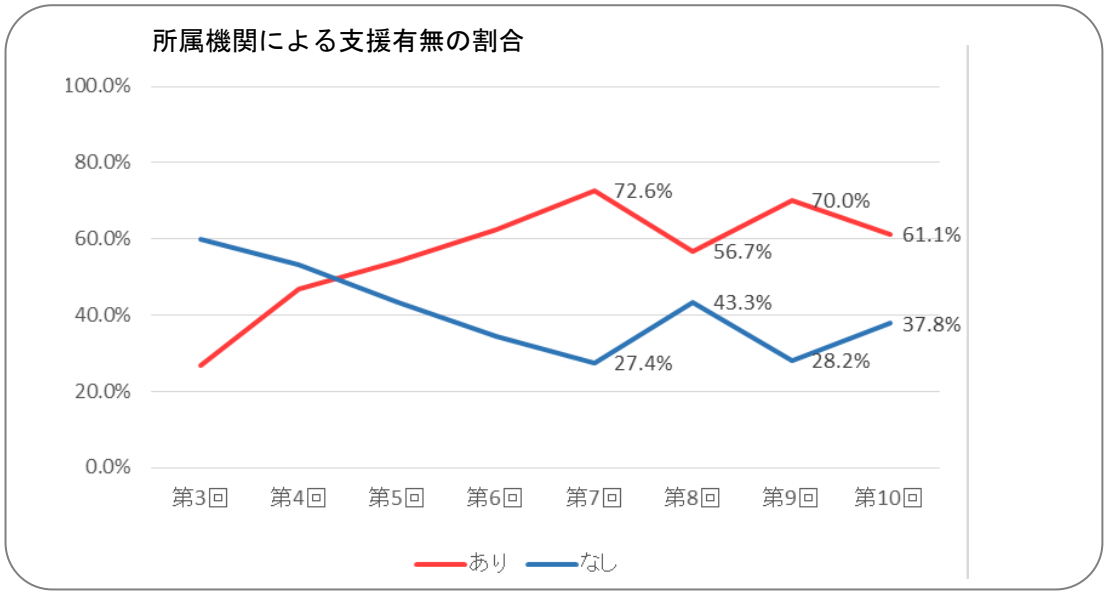
参加者の約 4 割は所属機関からの支援がない状況での参加となっています。一方、約 6 割の参加者は何らかの支援があったと回答しており、その内容としては「出張・代休」扱いが最も多く、半数を占めています。

第 7 回までは支援ありが増加、支援なしが減少傾向にありましたが、第 7 回以降は増減を繰り返しており、支援ありの割合は 6 割から 7 割程度で落ち着いているようです。





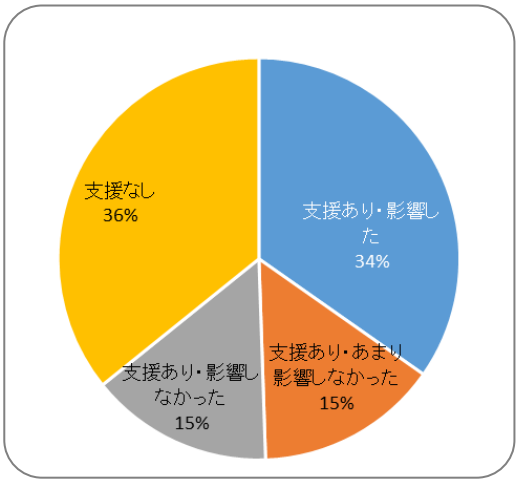
【参考資料】



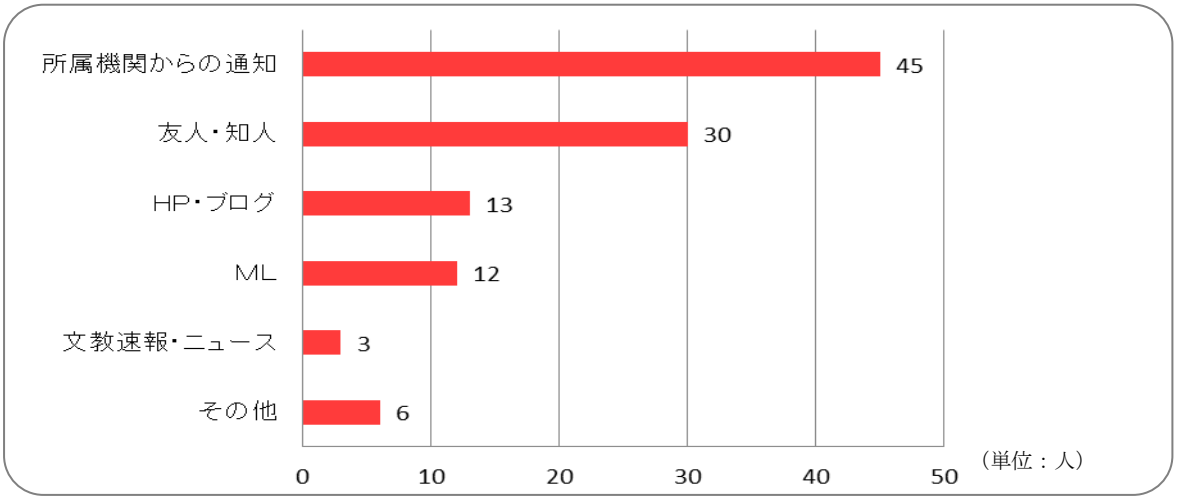
※分母は「アンケート回答数」であり、無回答者がいるため合計値が 100%にならない場合がある。

1-3　支援によるコクダイパン会議参加意向への影響

参加者のうち、34%（33 名）は「影響した（支援がなければ参加しなかった）」と回答しています。また、「あまり影響しなかった」「影響しなかった（支援なしでも参加した）」を合わせると 30%（28 名）となっています。支援なしの参加者が 36%（34 名）であり、66%の参加者は支援の有無にかかわらず参加意向だったことが窺えます。

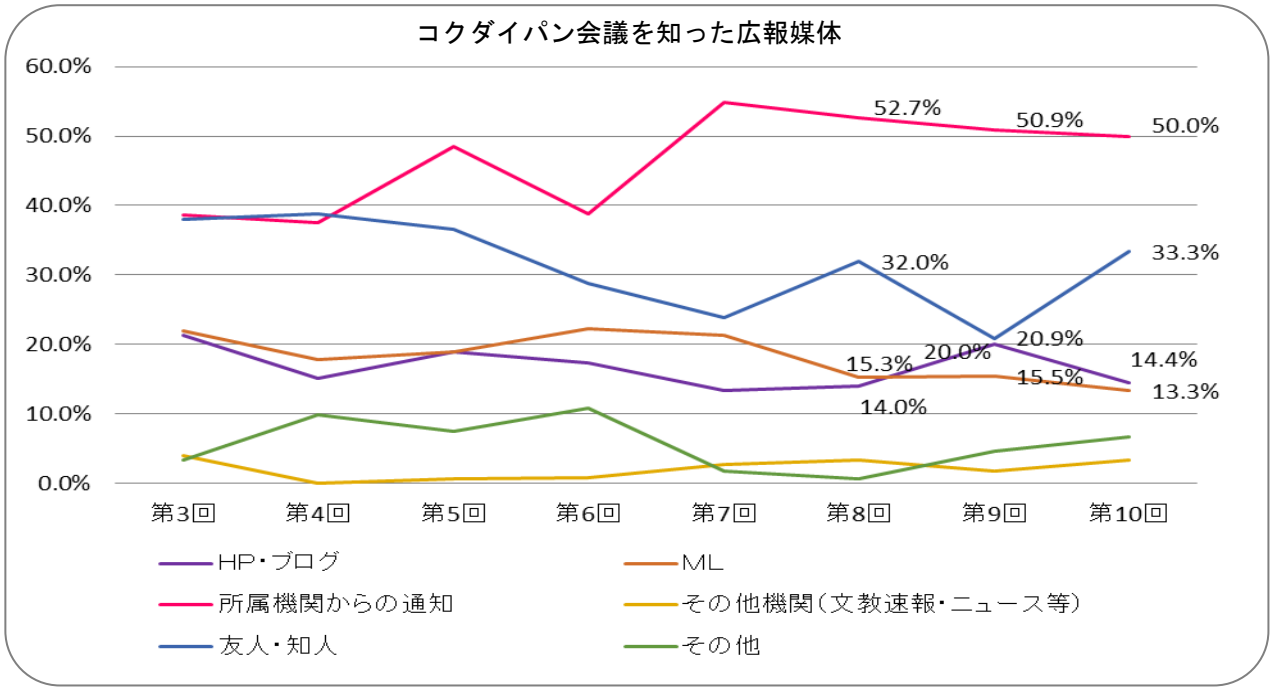


1-4　第 10 回コクダイパン会議の情報源



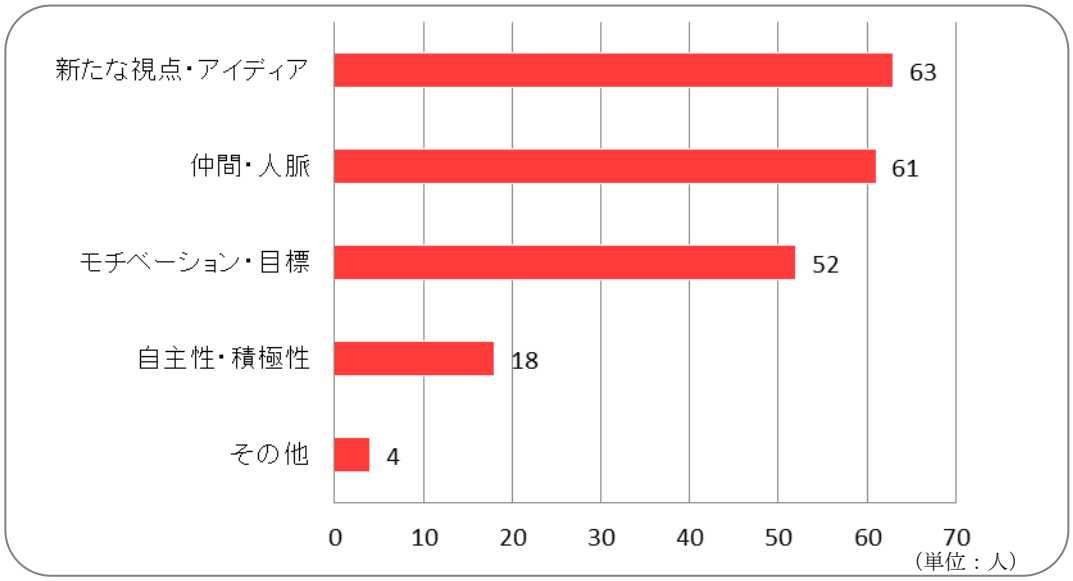
最も多いのは「所属機関からの通知」、次いで「友人・知人から」となっています。
第 9 回まで「友人・知人から」の割合は減少傾向にありましたが、第 10 回では前回比 1 割程増加しており、人とのつながりは引き続き重要な情報源となっていることが窺えます。

【参考資料】



※分母は「アンケート回答数」、分子は各項目の回答数。複数回答のため合計値が 100%にならない。

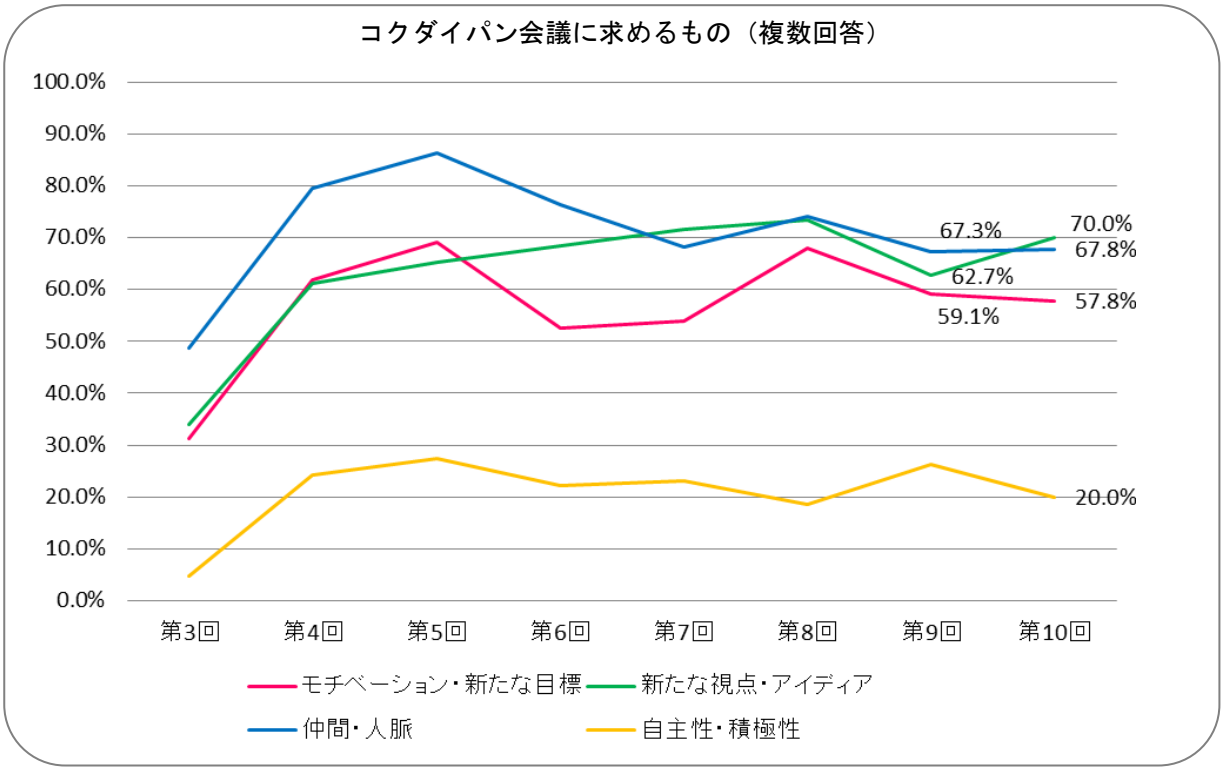
1-5　コクダイパン会議に参加することによって得たい・身につけたいもの（複数回答可）



「新たな視点・アイディア」が 63 名（70%）、「仲間・人脈」が 61 名（67.8%）、「モチベーション・新たな目標」が 52 名（57.8%）となっており、新たな視点・アイディアを求めて参加した方が最も多くなりました。これは、第 10 回のテーマの趣旨が適切に参加者に伝わったためではないかと考えられます。

また、過去のアンケートからの傾向から、「仲間・人脈」と「モチベーション・新たな目標」を求める参加者は微減傾向にある一方で、「新たな視点やアイディア」を求める参加者は、第 9 回では減少したものの増加傾向にあります。

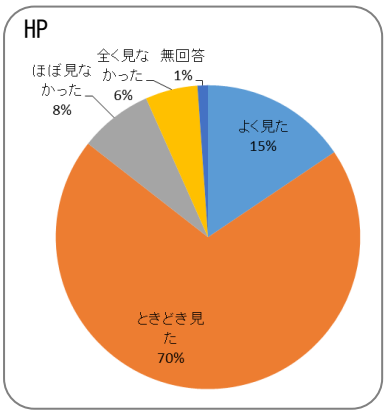
【参考資料】

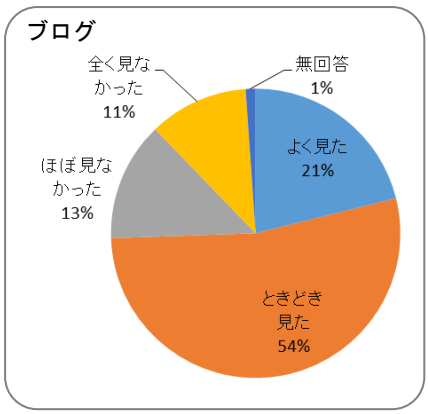


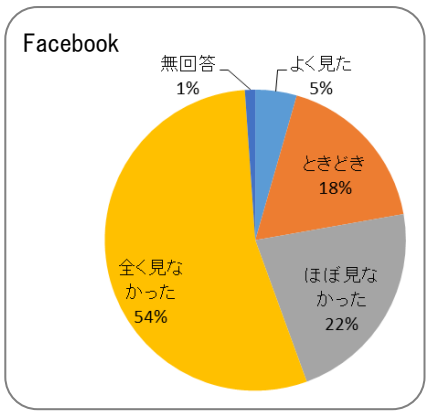
※分母は「アンケート回答数」、分子は各項目の回答数。複数回答のため合計値が 100%にならない。

2. 会議全体について

2-1　広報媒体（HP、ブログ、Facebook）の閲覧状況について



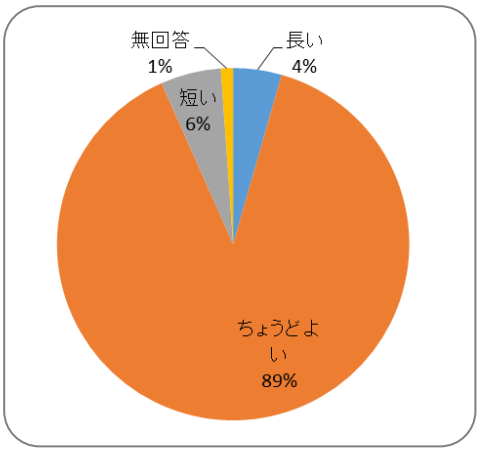




9 割以上の参加者が少なくとも 1 回は HP を閲覧していたようです。ブログについては、「よく見た」の割合が第 9 回と比して約 1 割増加しています。

一方、Facebook については第 9 回に引き続き全く見なかったとの回答が過半数を占める結果となりました。見なかった理由について Facebook の存在を知らなかったとの回答が散見され、周知不足が一因と考えられます。

2-2　会議日程について



〇前半 2 日間開催がよい　4 件

〇3 連休以外の開催がよい　3 件

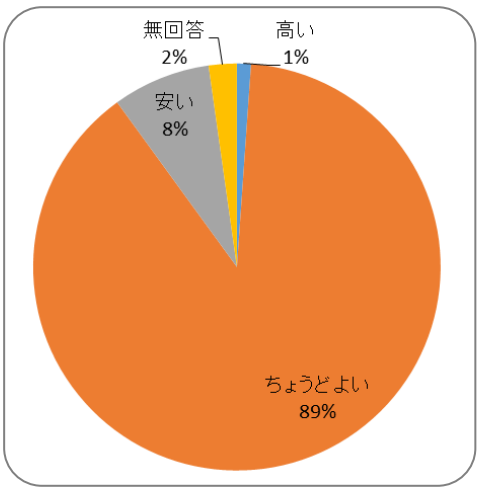
〇その他

他大学の事例発表分科会Ⅰをもう少し聞きたかった/1 日目の開始がゆっくりめだったので、参加しやすかったです/10 月開催のままでいいと思います。1 日と半日くらいでいいと個人的には思います。/1 日にしていただけるとありがたい/休憩時間が決まっているといい。/最終日の終了時間が 12：00 頃であれば良いと感じた。（遠方の人間の帰りを考えると）

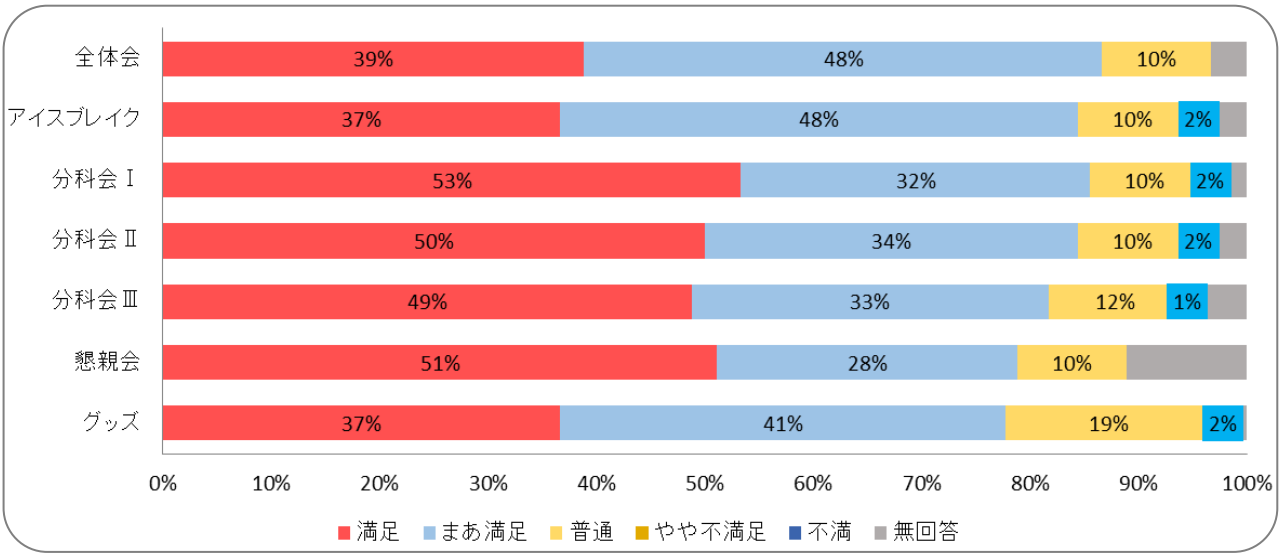
9 割近くの参加者が「ちょうど良い」と回答しており、スケジュールは適正なようです。
しかし、3 連休であれば前半 2 日間の方が参加しやすい、3 連休以外の開催がよいとの意見もあり、開催地のアクセスのしやすさによっては検討の余地がありそうです。

2-3　参加費について

9 割以上の参加者が「ちょうど良い」または」「安い」と回答しており、適切な参加費で開催できていることが窺えます。



2-4　会議の満足度

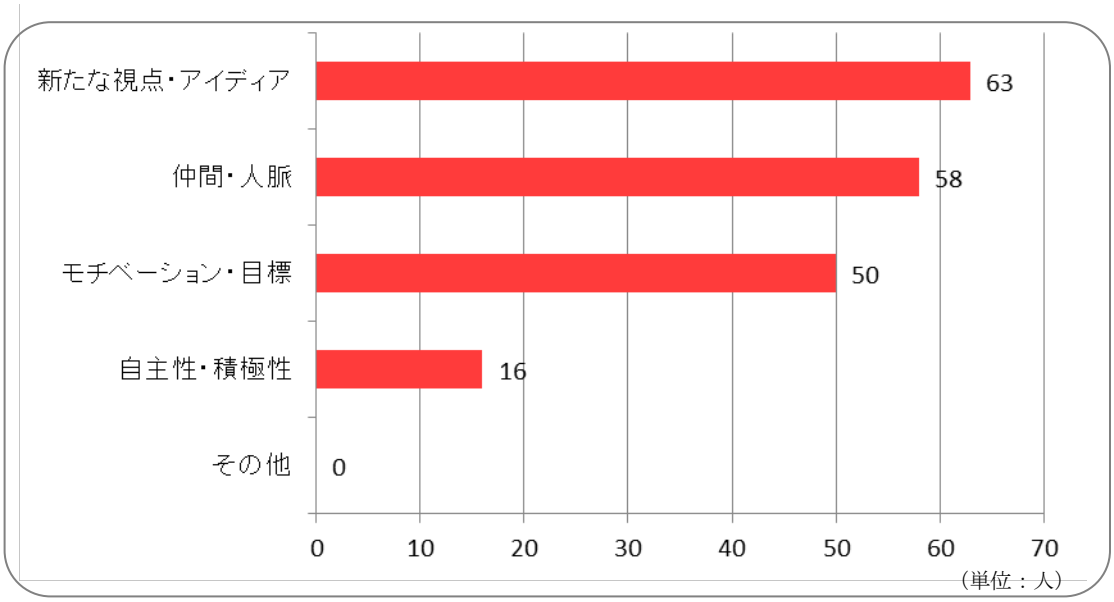


全体会、アイスブレイク、分科会Ⅰから Ⅲのいずれも「満足」「まあ満足」を合わせると 8 割以上となっており、大方の参加者から満足と評価されていることがわかります。

最も満足度が高かったのは全体会で、87%の参加者が満足と回答しています。名司会のおかげでしょうか。

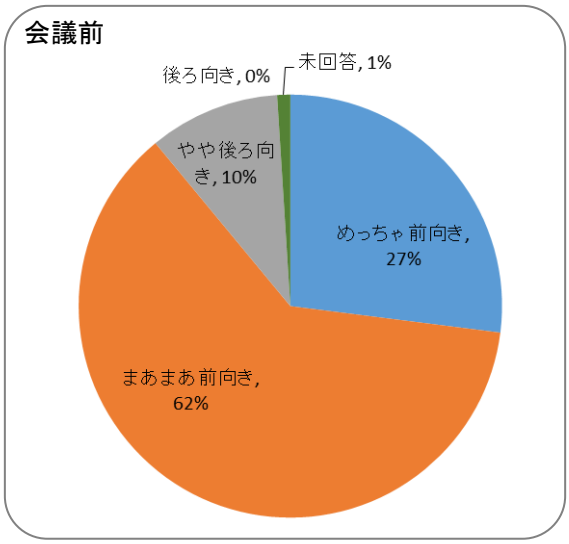
次いでアイスブレイク、分科会Ⅰが 85%、分科会Ⅱが 84%、分科会Ⅲが 81%となっています。分科会Ⅰ（参加者による事例紹介）は第 9 回に引き続き満足度が高く、他大学での取組みや活躍する職員の話を直接聞けることがコクダイパン会議の醍醐味となっていることが窺えます。

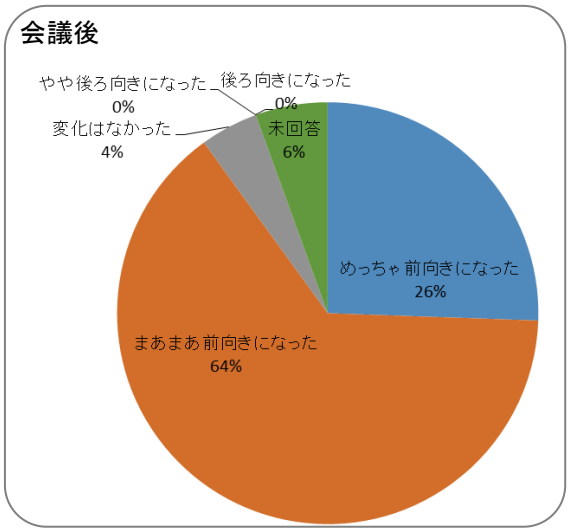
2-5　会議に参加することによって得られた・身についたもの（複数回答可）



「1-5　会議に参加することによって得たい・身につけたいもの」と比べると各項目概ね同数となっており、参加者がコクダイパン会議に求めるものと、実際に参加して得られたものは合致していることが窺えます。

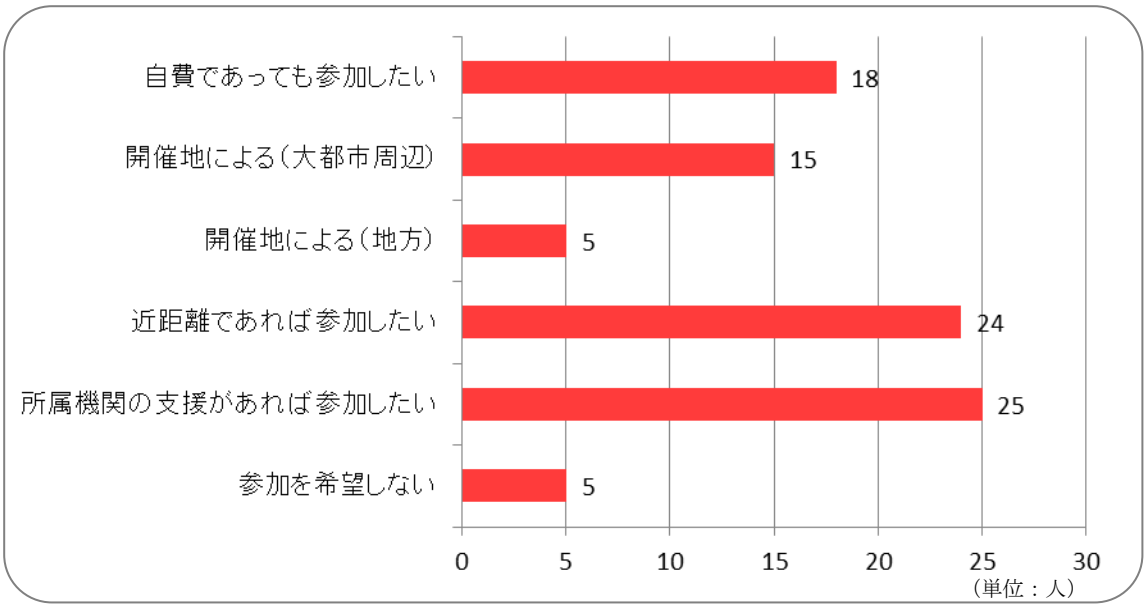
2-6　業務に対する姿勢の変化





今回のコクダイパン会議に参加して「めっちゃ前向きになった」「まあまあ前向きになった」と回答した参加者は約 9 割となりました。また、会議前は業務に対して「やや後ろ向き」と答えた参加者全員が、会議に参加して「まあまあ前向きになった」と回答しており、今回のテーマである「前向き思考」につながるヒントを得てもらえたと考えられ、企画側としては嬉しい結果となりました。

2-7　今後の参加意向



「自費であっても参加したい」と回答したのは 18 名（20%）でした。開催地によるという回答が最も多く、「大都市周辺」「地方」「近距離であれば」を合わせると 44 名となりました。また、「所属機関から費用面等での支援があれば参加したい」と回答したのは 25 名（28%）となり、費用面等での支援があれば参加したいとの回答割合は第 6 回から減少傾向にありましたが、今回増加に転じました。

3. 今後について

3-2　職場に戻ってからやってみたいこと

○コミュニケーションを取りたい・情報共有したい　（14 件）
同係との業務・悩みの共有／構成員とのコミュニケーションを密にとる／担当内でのミーティング／コミュニケーションをさらにとる。／腹を割れていない職員にも自分から積極的にコミュニケーションを取っていく／上司との打合せ／雑談とご飯いくとか（本とこれくらいしかできそうにないです）／他の係員と積極的なコミュニケーションをとる／とりあえずもっと同僚に話しかけます／情報共有をもっと／係長と仲良くなる／まずは仕事、職場について同世代で自由に話せる様な「場」を設けたい／職場に共有のお菓子を持ち込み、話題をつくる（コミュニケーション促進）/マニュアル作り、朝ミーティング

○意識改革したい・業務への姿勢を変えたい　（13 件）
積極性をもちたい／とにかくもっと基本の規則に戻ってみようと思ってます／自分の意識を向上させ、維持する！！　ということ／あまり考え込まないようにする／働き方の変更です／意識から変える／自分の仕事についてなんとなくできるではなく、しっかりと見直していこうと思いました／考え方を改める／もう少し肩の力を抜いて働くこと／業務整理をして、自分の今の業務と向き合う/始業前、終業後に業務の予定をたて、達成できたか確認する。自分が変わるという意識をもつ/もっと真剣に業務に向き合うことと、優先順位の付け方を練習すること/繁忙期を迎えるまでの事前対処。マニュアル、手順書など改善しようと思います

○業務改善　（10 件）
通常業務の削減／業務改善・横とのつながり／業務の整理、国際 SD の企画・実施、他部署との連携／もっと真剣に業務に向き合うことと、優先順位の付け方を練習すること【再掲】／業務改善について職場で話し合ってみようと思いました／ ToDo リストの作成

○知識の習得・勉強会したい　（7 件）
他の人（パート）に仕事を回せるようマニュアル作り。エクセルマクロや Access の勉強／能力向上／すでにやっていたことですが、大学院に通って勉強します／もう一歩踏み込んで他の人の仕事を勉強しようと思いました/今やっている若手勉強会を継続させられるよう頑張ります/今の部署の仕事に集中しいろんなことを吸収すること

○マニュアルをつくりたい　（6 件）
他の人（パート）に仕事を回せるようマニュアル作り。エクセルマクロや Access の勉強【再掲】／マニュアル作り、朝ミーティング【再掲】／自分から、いろんな人を巻きこむことができるようになりたいです。まずは英語対応マニュアルを作りたいです。／まずは自分マニュアルを作成！／マニュアル作成

○その他　（16 件）
空き時間の活用／可視化／今まで気になってはいたものの、取り組むことを渋っていた業務に手を付けたい／手持無沙汰な時間も有効活用できるような task を見つける or 作りたいと思っています／相手のペースを見極めながら、距離を縮められるように気長に働きかけるということ／疑問に思うことはほっておかないようにする。変な白紙を作らない／課内の問題共有、学生と近くなる／上司にアイデアを提案したいです／とりあえ

ず、自分の悩みを分析してみる／業務フリーとやったこと日誌はさっそく作ってみようと思います／机の整理、自分のキャリアプランの見直し／情報の発信など／コクダイパンの参加者の報告を紹介（個人的にこんな人がいたとか）/30 分早く出勤する/もう少し周りに助けを求めてみようと思いました

【コメント】

職場に戻って取り組みたいこととして、コミュニケーションに関することが多く挙げられました。改めて周りの人との連携や繋がりの大切さを実感していただいたようです。また、意識や姿勢の改善についてもコミュニケーションと僅差でした。自分自身の姿勢や意識次第で変化が起きることを再確認していただけたように思います。

他にも、「業務改善」や「知識の習得」など、皆さん各々、「まずは自分ができる範囲内で、改善につながりそうなこと」を見つけていただき、具体的な行動につながる一助となったようで、実行委員一同大変嬉しく思います。今後の前向きな取り組みに期待しています。

3-3　今後取り上げてほしい企画など

〇取り上げてほしいテーマ

●ワークライフバランス

・時間外勤務に係る各大学さんでの取り組み事例や、保育所運営について
・定時で帰る方法

●キャリアプラン

・新人、若手、中堅それぞれの立ち位置。リーダーシップ。
・将来指導する立場に立つために、現状でどんな準備をすべきか。
・「自分が係長になったら」/やがてやってくる係長への準備

●大学運営

・大学の運営費獲得方法について
・国立大のミッションや機能強化について（機能強化の 3 類型グループをつくって話してみたいです）

●事例

・仕事上で実際にあった事例
・ケーススタディ

●メンタルヘルス

・メンタルヘルスの話題等

●その他

・「前向き」の今回のテーマがとてもよかったと思います！
・引継ぎ
・職場にとって大切なものの 1 つがコミュニケーションですが、そのコミュニケーション力をどうやって身につけるか、上げていくか・・・。

〇取り上げて欲しい企画

・部署・仕事ごとのテーマ会
・学生支援とか、経理とか、職種ごとの分科会
・ネガティブな同期
・今回のようなワールドカフェは色んな視点が見つかってとても参考になりました。
・事務職員から大学への提言
・若手勉強会について、自主的に始めて継続している例があれば知りたいです
・考えて仕事するためのきっかけづくり
・各大学が売り出しているグッズの品評会
・企画立案

3-4　次回の開催地希望

エリア	人数	地域	内訳	具体的記載
東日本	21	北海道	2	北海道（2）
		東北	2	岩手（1）
		関東・甲信越	8	信州大学（3）、筑波大学（2）、長野（1）
		東京	6	お茶の水女子大学（1）
		東海・北陸	3	名古屋（2）、愛知（1）、
西日本	37	近畿	11	京都大学（3）大阪（2）、関西（4）
		中国・四国	10	広島（1）、広島大学（2）、岡山大学（1）
		九州	13	九州大学（2）、福岡（2）、熊本（1）、長崎（2）
		沖縄	3	
その他			2	どこであろうと必ず行きます、本州

※具体的な大学名についても反映させています。

近年の関東地区・東北地区での開催が続いていた中で、久しぶりの関西地区での開催となったことを受けてか、今後も西日本エリアでの開催を希望する声が多く聞かれました。今回は具体的な大学名が多く挙がったように思います。

4　その他のコメント（一部抜粋）

〇委員へのお礼・労い　（38 件）（学びがあった、新たな気づきを得た等の 4 件も含む）

・2 日間とも興味のある内容ばかりですごく学べました。また、前向きな方々と話をすることができ、とても刺激を受けました。ありがとうございました。全国の繋がりができたことが一番の収穫です。
・実行委員の皆様については、企画から会場運営まで本当にありがとうございました。
・企画盛りだくさんで楽しかったです。様々なサポートに感謝申し上げます。
・初めての参加でしたが、2 日間とても充実した時間を過ごすことができました。全国にこれだけ仲間がいると思うととても心強いです。来年も是非参加したいです。素敵な会に参加させていただき、本当にありがとうございました。
・準備・運営等本当にお疲れ様でした。若干のマンネリ感が漂うコクダイパンの中で、前向きに行動することは大変だったかと思います。ありがとうございました。
・記念すべき第 10 回開催おめでとうございます！！久しぶりの参加でしたが、楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございます。分科会 I は同世代の話＋若手の意見をきく時間が取れてとても勉強になりました。元気な若手の人たちがたくさんいて、なんだか今後が楽しみになりました。中堅としてはほっと一安心。
・今回参加できて新たな気づきを得ることができ、とても良い機会になりました。実行委員の皆さま、このような素敵な会を本当にありがとうございました。
・あっという間の 2 日間でした。最初は 1 年目の新人で気後れしそうだと思っていましたが話しやすい雰囲気で結構楽しめ、勉強になりました。いろんな大学のパンの方と交流できたことが新鮮で来て良かったです。運営の皆さんありがとうございました。
・二日間ありがとうございました。運営スタッフの方々には本当にいろいろとご尽力いただき感謝しております。
・今回参加させていただく機会を得られて、想像以上に充実した時間を過ごすことができました。企画・運営をして下さった方々は日々の業務もあった中でとても大変だったと思います。どうもありがとうございました。
・お疲れ様でした。コクダイパンを続けてくれてありがとうございます。この実行委員としての経験を自分たちの未来につなげてほしいと思います。実行委員が一番成長していると思います。
・実行委員会のみなさま、本当にお疲れ様でした。地に足のついた企画で、とても面白かったしためになりました。
・大阪大学、実行委員さん、本当に Thank you！！
・とても和気あいあいと楽しかったです！ありがとうございました！
・2 日間ありがとうございました。おかげさまで今後の仕事が楽しくなりそうです。
・第 10 回という大きなふしめでのコクダイパン運営について、重圧もあったかと思いますが、とてもすばらしい会をありがとうございました！！第 8 回コクダイパン会議に東北で参加しましたが、今回も多くの人たちと、いろいろな意見を知ることが出来ました。実行委員の皆さん、お疲れ様でした。ありがとうございました。
・色々な苦労があったかと思いますが、2 日間お疲れ様でした。プログラムについても、実行委員会としての意図が感じられ、かつ、スムーズな運営であったかと思います。ありがとうございました。to 実行委員の皆様
・実行委員の皆様、本当にお疲れ様でした。動いていただける人がいるおかげで、大きな動きが生まれているのだと思います。懇親会会場で、これまで 1～10 回のポスターがあって、歴史、懐かしさを感じました。いかに今後、自分の仕事を成熟させていくか、今後も考えていきたいと思います。
・第 10 回お疲れ様でした！来年は参加できませんが、また再来年にパンの皆さんとお会い出来るのを楽しみにしています。

・企画、運営等ありがとうございました。普段は発見できない気づき等の発見が出来、この会議に参加でき本当に良かったです。来年もぜひ参加したいと思います。
・楽しく有意義な時間を過ごすことが出来ました。実行委員の方々本当にありがとうございました。
・仕事をしていく中でいぜんより向上心ややる気が失くなっていて、それを変えるために参加しました。2 日間参加して良かったと思います。有難うございました。
・実行委員の皆さんが素敵な企画をしてくださったので、大変有意義な時間となりました。まだまだ考えが足りないと感じたので、職場に戻って頑張りたいです。ありがとうございました。
・初めて参加しましたが、想像以上に面白かったです。運営お疲れさまでした。
・運営ありがとうございました。とても有意義な時間となりました。モチベーションがすごく上がりました。
・積極的でおもしろい方ばかりで非常に楽しかったです。できれば一緒に仕事ができたらと思いました。こんなキャラの濃い人ばかりなら仕事たのしいのに！と思います。スタッフの方々、ご準備にお時間を割いていただいて本当にありがとうございました。普段の学内研修よりずっと有意義でした。

〇人とのつながり　（7 件）

・普段自分の業務のことで精一杯になってしまうので、今回様々な人の話を聞くことができてためになりました。
・たくさんの方のアイデア、考え方、志、いろんな話しを聞くことが出来て、とても勉強になりました。
・同世代で同じ境遇にいる方々とお話出来るのは、とても楽しかったです。
・参加することに何か意味はあるのかと思いつつ初参加したのですが、たくさんの人と話すことで、新たな視点を知り、じぶんのやっていることを見つめ直すことができました。

〇改善点　（5 件）

・全体の流れなど、よく練られていたのではないでしょうか。あまり仕事に悩みがない状態だと、事前課題や計画書はちょっと苦しいかも、と思いました。贅沢な悩みなのかもしれませんが…笑。
・グループ分けで勤務年数を考慮いただく際に、社会人経験年数で考慮していただけると良かったです。
・グループのわりふりですが、分科会 2、3＋懇親会＋朝のアイスブレイクの席で人がかぶらないように工夫をしてもらえると、もっと多くの人と交流できる機会があったのではないかと思います。
・実行委員の方は積極的に発言しよう！　みたいなのが決まっていたのでしょうか……？　たまたまかもしれないですが、リーダー役が実行委員の方で固定していた印象を受けたので、役割を固定しない方がより議論できたきがしました。
・分科会Ⅲのニックネームですが、決まったら全員に呼ばせると浸透するかもしれません。（例：A「私のニックネームは「〇〇」です。　全員「〇〇ー！」）

〇その他　（実行委員に興味あり、提案、感想、ご飯派等）（6 件）

・大学行政管理学会等私学職員が集まって出来た団体（学会）はあるが、国立大学の管理職ではなく一般職員（ヒラ社員）が中心となって出来た職能団体として、コクダイパンは日本の高等教育史上画期的な団体だと思う。単なるガス抜きや初任者研修のアウトソーシングにならないよう、第一回目の報告書にあるような「ラディカルさ」を無くさないようにしていただきたい。ありがとうございました。
・「会議」と名がつくのなら、大学にまつわる問題について勉強・討論してみてもいいのでは。
・念願の自校開催が叶い、よかったです。ブログの大学までのアクセスについての記事、とても助かりました。ありがとうございました。すごくドキドキして参加しましたが、参加して良かったです。いろんな方とお話しできたことが、本当に自分の「前向き」に繋がっていくと思います。テーマや時期によるかもしれませんが、ぜひまた参加したいです。パン美味しかったです。
・まだ自分の中で落とし込めてないところがあるので、今回学んだこと、感じたことを明日以降も見直し、前向きに頑張って行きたいです。
・今の出向先が非常に恵まれている。大学へ帰って、悩み、苦しみ、ツラくなったらまた来ようと思います。今は自己啓発！
・「本音が話せなかった」というのが感想です。大学職員としては 2 年目ですが、入職前は民間で 6 年半勤めていました。その時には、後輩をまとめる主任の仕事をしていたので、後輩のまとめ方、巻き込み方、上司との関わり方など、それなりに感じていることはあります。ただ、大学職員としての経験は浅いので、学びたいという思いもあり、新卒 2 年目、4 年目の人と話をするとき、自分がどういうスタンスで話をすれば良いかわからず、困ってしまい、結局本音が話せないままになってしまいました。自分がどのような思いで、どういったスタンスで参加するのか、もう少し意識しておけば良かったと反省しています。次の機会には、しっかりと考えた上で参加出来ればと思います。

実行委員へのお礼や労いの言葉が非常に多く寄せられ、とても嬉しく思います。参加者のみなさまに改めて感謝申し上げます。

また、様々な人の意見を聞くことで刺激を受けたり、前向きな姿勢につながったなどの声が多く聞かれ、この 2 日間を通し、有意義な人脈を築いていただけたようです。

なお、アンケート項目 3－6 でのコクダイパン会議の企画・運営スタッフになることに興味があるかという質問に対し、「ぜひやってみたい」は 2 名（2%）、「興味がある」は 20 名（24%）の回答がありました。長期に渡っての本務とのかけもちはそう簡単に決断出来ることではないかもしれません。しかし、必ず自分の成長に繋がる経験になると思いますので、積極的な回答をくださったみなさんは是非その一歩を踏み出してみてください。

コラム 4　～第 10 回コクダイパン会議の作り方～

第 10 回コクダイパン会議はどのように当日を迎えたのか、実行委員会始動から当日までの動きを振り返ります。

≪2 月≫
・第 10 回実行委員会メンバー決定！第 1 回ミーティングに向けて始動！

≪5 月≫
・第 1 回ミーティング＠大阪大学開催
このミーティングで企画の大枠が決定しました。委員の中には、他の委員は初めて顔を合わせる…といった場合もありましたが、熱い議論を交わすうちに、初対面・勤務年数・勤務地など全く気にならなくなっていきました。

≪ミーティング終了～参加者募集開始まで≫
・参加者募集に向けて企画詳細、実施要項の作成に全力投球

≪7 月 4 日≫
・参加者募集開始！

≪8 月≫
・第 2 回ミーティング＠大阪大学開催
この時点で企画詳細はほぼ決定しており、当日は実行委員によるロールプレイングを行いました。参加者にとって分かりにくいことはないか、ねらいの達成のために更に工夫できることはないかなど最終段階の詰めを行いました。

≪9 月～会議直前≫
・ロールプレイングで出た課題への対応策を決定
・当日配布する資料の作成
・前日準備～片づけまでの段取り決定など

≪10 月 9 日、10 日≫
そしていよいよ当日…！！！

実は、当日までの間で実際に顔を合わせているのは下線を引いている 2 回（会議終了後の反省会を含めても3回）のみです。それ以外の期間は、メール、オンラインストレージやグループウェアなど Web を駆使して議論を進めていました。密に連絡をとっていると、ほとんど顔を合わせていないことが不思議に思えるほどです。
平日の業務後、休日など時間のやりくりは各自工夫が必要でしたが、互いに刺激しあう仲間ができたこと、そして参加者のみなさんと第 10 回コクダイパン会議を作りあげられたことは何にも代えがたいものでした。

4. 終わりに　～謝辞～

第 10 回コクダイパン会議は、会議運営に多大なるご尽力をいただきました会場校である大阪大学の皆様、サポーター、事例発表者などの皆々様のおかげをもちまして、特段大きなトラブルや天災に見舞われることなく、無事終了することができました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、参加者や実行委員の活動は、様々なかたちで支援を賜った各所属機関の皆様やご家族の方のご理解、ご支援があって成り立っています。いずれが欠けても、コクダイパン会議の成功はありませんでした。改めて、関係する皆様に重ねて御礼申し上げます。

ここに、第 10 回コクダイパン会議の報告書が完成いたしました。今回の会議では、参加者が日常抱えている業務や課題に対し、どのように前向きに捉え、取り組んでいくかについて議論し、自分の目標とする行動を「私の前向き計画書」としてまとめました。その一部を本報告書に掲載しておりますので、あわせてご覧いただき、様々な「前向き」の形を参考にしていただければ実行委員一同幸いです。

10 年前、全国の国立大学一般職員たちの間でくすぶっていた小さな火種がひとつになり、コクダイパン会議が誕生しました。そして 10 年という年月が流れ、当時コクダイパン会議を立ち上げたメンバーの中から、大学運営を担うべくより責任ある立場へと移られ、パンを卒業していく方も出てきています。その間、コクダイパン会議も決して平穏に平坦に運営してこられたわけではなく、毎年、大学職員を取り巻く環境や状況も変わっていき、さまざまな課題が浮かび上がってきました。そうした課題と向き合い、改善や解決を模索することを実行委員会は続けてきました。
法人化後、国立大学は第三期中期計画期間を迎え、大学のあるべき姿、求められる役割も大きく変化しています。それとともにコクダイパン会議の性質や求められているものも変容しているように感じます。職員に求められている能力や人物像が変化していることをふまえると、今回 10 年目という節目の時に、コクダイパン会議もまた、今後のあり方や方向性を今一度再確認し、必要な改革をすすめていくことを視野に入れていくべきなのでしょう。

最後になりましたが、コクダイパン会議にご参加いただいた皆様が会議で得たものを存分に職場へ還元され、また今後ますますご活躍されますことを祈念して、簡単ではありますが謝辞とさせていただきます。